

〇令和5年度の具体的な学校経営目標・計画

岡山県立東岡山工業高等学校

具体的な学校経営目標	具体的計画	主な担当分掌	今年度の達成基準	中間達成状況と評価		最終達成状況と評価	
				達成状況(9月現在)	評価	達成状況	評価
学習活動の充実	・「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業を展開する ・ICTを活用した学習活動、基礎学力の定着、授業以外の学習時間の充実にむけた取組(課題、レポート、資格学習)を行う ・教育活動の中で、持続可能な未来のために、気づき、考えるきっかけづくりを行う(SDGs)	教務課 OJT研修チーム 情報管理部	・育成したい生徒像についてのアンケートを実施し、「産業界や地域社会の発展に貢献できる」と「ものづくりを通して他者と協働し、主体的に考え、実行できる」の数値が上がっている。 ・ICT活用、授業実践について校内研修を行い、教員間で知識・技能の共有ができています。	・深い学びのために取り入れた東工版デュアルシステムは順調である。 ・ICT活用、授業実践例を共有する場面を持っている。	A	・デュアルシステムは生徒には大変好評であった。意欲的に、かつ協働しながら取り組むことができた。 ・OJT研修では各自が設定したテーマでの授業研究が進められ、ICT活用を含めた実践的な授業研究ができ、授業計画の中でより効果的な学習用具としてのICT活用を考え、チーム以外との連携を含めて実践的な研究ができた。	A
		全教科 学年団	ICTを活用した授業を展開することや、継続的な声かけで、学習内容がより定着するようになる。プリントに加え、ICTを活用した課題を工夫することで、家庭学習の時間が年度当初より向上する。資格・検定の合格者が増加する。各教科でSDGsを意識した授業を行う。	座学を中心として各教科でICTを活用した授業に取り組んでいる。共通教科では課題提出状況もよい。	B	・課題提出やアンケート、プレゼンテーションなど、各教科で積極的にICTを活用できた。 ・課題提出は全体で80%以上となっている。 ・PBLを取り入れている教科もあり、主体的・対話的で深い学びが浸透しつつある。	B
ものづくり教育	・ものづくりや資格取得により、専門性を育成する ・専門高校として、安心・安全な学習環境を構築し、5s(整理・整頓・清掃・清潔・躰)運動を推進する	資格推進部 専門科	・ものづくりコンテストで上位入賞を果たす。 ・計画的に資格を取得する。	【ものづくりコンテスト】全国大会進出：化学分析部門 中国大会進出：旋盤作業部門 【ロボットコンテスト】全国大会進出 ・資格取得は合格率が高くない。	A	【全国】製図コンクール最優秀特別賞、全日本ゼロハンカー2位、ものづくりコンテスト化学分析部門準優勝、ソーラーラジコンコンテスト、ジャンマイコンコンクール8位 【中国】ものづくりコンテスト旋盤作業部門、溶接作業部門 【県】高校生ロボット競技コンテスト優勝、高校生テクノフォーラム最優秀賞	A
		専門科	・実習開始時に安全教育を実施している。 ・安心・安全な学習環境が整っている。	環境を整備・整理整頓し、安全に実習を行えている。今のところ大きな事故はない。	B	5Sを徹底し、学習環境を整備整頓し、安全に実習ができた。	B
豊かな人間性の育成	・学校生活において、さわやかな挨拶・正しい言葉遣い・礼儀作法の習慣化に向けた取り組みを行う ・部活動、生徒会活動を通して心身の育成や豊かな人間性を育てる ・規範意識と思いやりの心、健やかな身体の育成と安全教育を推進する	生徒課 学年団	授業前後や部活動、挨拶運動を通して指導・実践していくことで、学校評価アンケートの該当項目の肯定的な評価が80%以上となる。	授業や行事だけでなく、様々な場面で挨拶指導をしている。多くの生徒は実践できているが、不十分な生徒もいる。	B	挨拶について指導や生徒からの働きかけも行い、年度当初よりは挨拶ができるようになった。	B
		生徒課	1年生全員入部。 年度末にSDGsに関するアンケートの収集を行い、全員がSDGsに関して理解できるようになる。	全員入部を目標とするが、生徒個人の事情により達成はできていない。SDGsへ向けた取り組みは、生徒会を中心に進めている。	B	全員入部は、個人の事情により達成はできなかった。SDGsへの取組は東工祭などで、ゴミの削減などを中心に中古材を使うことで実現できた。	B
		教育相談課 管理厚生課 保健体育科 情報管理部 学年団	・相手を思いやる心を持ち、いじめを許さない環境ができています。 ・授業における自己評価アンケートでの他者理解について肯定的回答が90%以上 ・学校生活アンケートの肯定的回答が90%以上	・第1回学校生活アンケートでは、9割以上の生徒が安心して学校生活を送れていると回答している。不安を抱えている生徒には面談で聞き取りをして対応している。 ・いじめや人権についての集いを複数行い、生徒の意識高揚に努めている。	A	人権教育に関する講演会や研修、集会、教育相談、保健委員会活動等により、相手を思いやる心を持ち、いじめを許さない環境を作ることができた。 ・自己評価アンケートでの他者理解について肯定的回答90%以上 ・学校生活アンケートの肯定的回答90%以上	A
キャリア教育	・キャリア教育(企業見学、インターンシップ、卒業生との交流等)を推進し、一人ひとりの進路実現の充実を図る	キャリア教育研究委員会 進路指導課 学年団	各部署が連携を取りながらインターンシップを計画・実施し、生徒の職業観や進路意識の向上が見られる。	・3年生 就職希望者195名(72%) 進学他希望者76名(28%) ・8月インターンシップ 41社に85名が参加。	B	各担当分掌がよく連携して進路実現に向けて充実を図ることができた。 3年生については就職希望者も進学希望者もほぼ希望通りに内定、進学が決定している。	A
地域連携による教育	・近隣大学や地域の外国人とコミュニケーションをとったり、異文化理解を深めたりする機会を設け、語学と国際理解に関する力を伸ばす ・地域の小中学校等に向くものづくり教室や、町内会と連携した地域清掃等のボランティア活動とおとして視野を拡げ、主体性と協働意識、他者尊重と社会貢献の精神を育み、社会人基礎力(前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力)を身に付けさせる	グローバル人材育成	年に2回以上、講演会または地域の外国人とものづくり等を通じた交流会を実施する。そのうち1回はオンラインで海外と交流する機会を設ける。	新しい取組として、「企業の海外事業所(インドネシア)とのオンライン国際交流」を実施した。参加した生徒(71名)は外国や異文化についての知識や理解を深めるとともに、「海外で働く」ことについて具体的にイメージを描くなど、キャリア教育推進の観点からも生徒の職業観を育成する貴重な機会となった。	B	ALT対象「ものづくり教室in English」海外企業とのオンライン国際交流等、年2回以上の行事を実施できた。生徒アンケートの結果から、「語学力」「コミュニケーション能力」「異文化理解」「チャレンジ精神」「地域貢献」の全ての項目において、それぞれの力が向上したという肯定的な回答が得られた。今後も持続可能なグローバル活動ができるように、行事を精選しながら工夫していきたい。	A
		キャリア教育研究委員会 生徒課 専門科	地域貢献活動や出前講座、科学教室へのボランティアへ平均2回以上参加することにより、地域からの信頼が得られている。	・地域の清掃活動等ボランティアは順調に参加している。 ・各専門科を中心に出席授業や交流を企画し、実施している。	A	・小中学校での出前授業は9校、地域の公民館や施設でのものづくり教室は6講座、など例年より多くの地域連携による教育をおこなった。 ・地域清掃ボランティアは1学期に1回、地元町内の清掃活動は月に1回おこなった。	A
教育活動の発信	・オープンスクール、ホームページ、中学校訪問等の広報活動を充実する	総務課	昨年度より多くの中学生がオープンスクールに参加している。中学生にとって見やすいスクールガイドが完成している。	夏オープンスクールは昨年度に比べて約100名の参加者増である。スクールガイドは現在作成中である。	B	夏オープンスクールは昨年度に比べて約100名の参加者増である。スクールガイドはR6年度に大幅改定できるように準備できている。	A
校内組織の活性化と人材育成	・学校組織の業務効率化の推進(分掌の見直し、勤務時間の軽減)する ・OJTによる人材育成・技術伝承の推進をする	各課	各部署で業務の見直しがなされ、次年度への継継ができています。	部署によるばらつきはあるものの、各部署で取り組んでいる。	B	各担当分掌が進んでいるが、全体としては大きな変化はない。	B
		OJT研修チーム 各課 専門科	各担当が協力して業務を行い、業務内容が整理され、誰が担当になっても業務が遂行できる準備ができています。	OJTを中心にし、各部署でベテランから中堅、若手への指導・伝承が進んでいる。	A	会議の中で引継と伝承をおこなったり、資料を共有したりして人材育成をおこなった分掌もあった。	B